

第2部門A 郵便史・日本

南方占領地ジャワの郵便 かとうの よしひさ 上遠野 義久 (埼玉県) ③

南方占領地の中で最も広範囲に及ぶ地域が旧オランダ領東インドであり、ジャワ、スマトラ、海軍担当地区で構成される。昭和17年4月29日がジャワにおける通信業務再開日とされ、郵便、電信電話および郵便貯金の取り扱いが始まった。本作品ではジャワで使用された郵便物の種類とその料金を中心に、貼付されている郵便切手および郵便印のバラエティーを整理した。占領期間中に開設されていた郵便局数は500局を超える。日本切手の無加刷使用と現地加刷切手の無いことがジャワの特徴の一つである。

南方占領地ジャワの郵便

1. はじめに
1942(昭和17)年5月1日にジャワへ上陸した翌6月1日には首都のバンドンを占領した。占領後の郵便には旧郵印の残存切手が使用された。その残ジャカルタの工場工場で印刷した切手が使用されたため、日本切手や現地の切手は見られない。郵便は宛先ごとに料金の異なることが特徴である。郵便印は旧郵印時代の郵便印が使用されたが、「年」の表示のみ省略の下2桁に変化した。本展示は占領下における郵便物の使用例で構成している。

2. ジャワの郵便料金(単位:センド)

期間	宛先	書状	葉書	印刷物	定額印刷物	書留	速達
占領初期 1943.6.30	島内(A)	20センド	3.5	10センド	10センド	20	25
	島内(B)	20センド	3.5	10センド	10センド	20	25
	島外(A)	20センド	3.5	10センド	10センド	20	25
	島外(B)	20センド	10	10センド	10センド	20	25
1945.7.1 ～8.15	島内(A)(B)	20センド	5	10センド	10センド	20	25
	島外(B)	20センド	5	10センド	10センド	20	25

宛先の区分
島内(A) 同一市内および一定の隣接地域
島内(B) 占領ジャワの一般地域
島外(A) 日本内地、南方占領地間
島外(B) 中国、欧州

3. 作品の構成

ページ数	展示マテリアル
2～13頁	書状: 島内(A)(B)、島外(A)(B)の使用例
14～25頁	葉書: 島内(A)(B)、島外(B)、郵便通知書等の使用例
26～33頁	印刷物: 定額印刷物の使用例
34～44頁	書留: 書状、葉書、印刷物の使用例
45～48頁	公印: 葉書、書状、差遣の使用例及び郵便局留書

4. 目録のマテリアル
・23頁 スマトラ北東部書留の押込使用 ジャカルタ局 2003年
・47頁 無料公用書状の速達郵便 ジャカルタ局 2004年

5. 参考文献
青木好三著『私蔵切手がたから郵便』切手研究会 1987年
土沼雅彦著『南方占領地切手のすべて(下)』日本郵政協会 1999年

書状

島外A宛 20グラムまで 料金10センド

第2次普通切手
10センド貼

ジャワと日本内地の間の郵便物
交換は1942年10月1日から開始
埼玉県北埼玉郡大田村宛
埼玉県北埼玉郡大田村宛

抹消郵便印: DJAKARTA 25.9.04

葉書

島内A B宛 料金3.5センド

スマトラ正刷葉書の持込使用

抹消郵便印: DJAKARTA 22.11.03

速達公用書状

島内B宛 料金25センド
[書状料金 無料+速達料金25センド]
第2次普通切手20センド、旧蘭印切手5センド貼

抹消郵便印: DJAKARTAKOTA 10.11.04
刷替印: MOJOGAENG 12.11.04 (裏面)